

《短報》

山口県内でのエビアマモの新産地

久志本鉄平

下関市立しものせき水族館. 〒750-0036 下関市あるかぼーと 6 番 1 号

はじめに

エビアマモ *Phyllospadix japonicus* はアマモ科スガモ属の植物で日本海沿岸では秋田県から福岡県, 太平洋沿岸では茨城県北部から三重県に分布する (大場・宮田, 2007). 県内の分布はレッドデータブックやまぐちによると三隅町と萩市の古い記録があるのみで現状は不明であり, 県内の生息地は限定され, 消滅のおそれが大きく山口県カテゴリーでは絶滅危惧 IA に分類されている (山口県, 2002). 今回, 新たにエビアマモの生息地を確認したので報告する.

観察記録

山口県下関市豊北町大字阿川 2013 年 7 月 4 日

山口県下関市豊北町大字角島 (通瀬岬) 2013 年 7 月 4 日

山口県下関市豊北町大字角島 (大浜) 2013 年 7 月 4 日

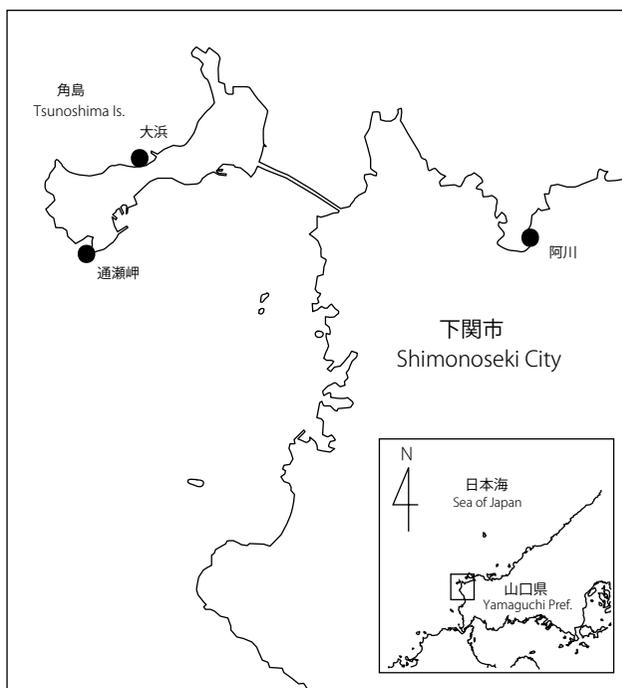


図 1. 生息場所

エビアマモには近縁種としてスガモがあるが, スガモでは葉の幅が 3.5 cm 程度で葉の縁に鋸歯がないが, エビアマモは葉の幅が 0.2 cm 程度で葉の上部の縁に鋭い鋸歯がある. 今回この特徴が認められたことから



図 2. 角島（大浜）の群生の様子

エビアマモと同定した。今回確認できた地域はいずれも日本海側の波浪にさらされる岩礁上であった(図1)。阿川及び通瀬岬はわずか数株の確認で小規模な生息地であったが最も波浪の影響があると考えられる大浜では群生していた(図2)。これまでに三隅町と萩市から分布記録があることから山口県内では豊北町角島から萩市田万にかけての沿岸部で新たに生息地が見つかる可能性があると考えられる。

謝 辞

調査を行うにあたり、角島漁業協同組合の森澄一實組合長にご協力をいただきここに記し、感謝の意を表す。

引用文献

山口県(2002)「レッドデータブックやまぐち」513pp.,山口県環境生活部自然保護課,山口県.
大場達之・宮田昌彦(2007)「日本海草図譜」114pp.,北海道大学出版会,北海道.